人生をみる医療

CCH総診

コミュニティホスピタル
総合診療プログラム

CCH総診ホームページ
https://cch-soushin.jp

お問い合わせ先

〒110-0011 東京都台東区三ノ輪2丁目7-5
同善病院内
CCH総診プログラム事務局

お問い合わせフォームはこちら!
https://forms.gle/dSyddxr5Z7Yin7KF7

CCH総診 LINEアカウント
最新情報をお届けします!
https://page.line.me/065bcias

CCH協会 Facebook
活動報告や勉強会の案内などを
随時行っています!
https://www.facebook.com/CCHA2022

教育の力で医師を育て、地域と医療の未来を創る

CCH総診

コミュニティホスピタル
総合診療プログラム

Message

教育の力で医師を育て、
地域と医療の未来を創る。

人生をみる医師を育てる総合診療専門医プログラム

医者が診るのは患者の病気だけでいいのだろうか?
「総合診療専門医」は、これからの日本の医療を担う専門領域として、
2018年に19番目の専門医として加わりました。

患者が抱える病気はもちろんのこと、その背後にある家族や仕事のこと、
そしてそれまでの人生を見つめ、最適な糸口を患者と一緒に探していきます。

病気だけではない、私たちがみるのは、ひとりの人の「人生」です。

私達は教育の力を信じています。
多様な教育体制と教育環境、共に学ぶ仲間が専攻医の3年間を濃密なものにし、
3年後に総合診療専門医のキャリアのスタートラインに立つことを約束します。
総合診療専門医という、これからの日本を担う医師の姿が、ここにあります。
地域から日本を、そして世界がより健康になるように変革していきましょう。

医療課題への新処方、コミュニティホスピタル※構想

超高齢化社会が進展する日本。地域の医療インフラは、このままでは支え続けられません。今、本当に必要とされるのは、「病気」を診る医療ではなく、「患者」を診て、「社会」を診て、「治し、支える医療」への大胆な転換です。総合診療を軸として、本来必要な総合的な医療とケアをワンストップで提供する。医療者にとって、本来やるべき仕事に集中し、成長しながらいきいきと働ける環境を創る。まちの人にとって、病気の前も後も「ここがあるから安心」と拠り所になる。この医療を実現するのが、私たちが考える新しい病院、コミュニティホスピタルです。このCCH総診プログラムでは、全国のコミュニティホスピタルを担う総合診療専門医を育成していきます。

一般社団法人コミュニティ&コミュニティホスピタル協会（CCH 協会）

CCH協会は全国にコミュニティホスピタルを作り、そこで働く総合診療専門医・医療専門職の育成と輩出、地域包括ケアを始めとする地域づくりを推進するために2022年に設立しました。

CCH協会WEBサイト

コミュニティホスピタル	総合診療を軸に超急性期以外のすべての医療、リハビリ、栄養管理、介護などのケアをワンストップで提供する病院。病気だけを診る医療ではなく、患者さんの人生を診て、「治し、支える医療」を提供します。

総合診療専門医プログラム

「楽しくなければ意味がない」

これは、私たちのプログラムの根底にある考え方です。

CCH総合診療プログラムには、

様々なバックグラウンドを持った多様性のあるメンバーが、

お互いを認め合い、大切にしながら、楽しく、

そして真剣に成長する、そんな環境が整っています。

新しい価値は多様性の中に生まれると信じています。

CCH Program

プログラムについて

Program

Point 1 地域に密着した多様な研修環境

大病院にはない地域に密着した4つのフィールド（外来・病棟・在宅・地域）で、専攻医の目標・ニーズに合わせた実践的な研修を受けることができます。3年間で最も能力が伸びる機会を提供します。

Point 2 専攻医数 日本No.1の藤田総診との連携

日本の総合診療プログラムの中で、最も多くの専攻医を集めている藤田総診と連携したプログラムを提供します。充実した教育体系のもとで、現場で使える実践的な内容を研修することができます。

Point 3 研修終了後の多様なキャリアパス

プログラム終了後には、全国に展開していくコミュニティホスピタルや、中小病院やクリニックの継承など、多様な選択肢から、多様な未来を描けます。そのためのリーダーシップ、マネジメント研修などを重視したフェローシッププログラムを用意しています。他科専門医から総合診療医・家庭医に転向したい方も大歓迎です。

Point 4 プライベートも重視した多様な研修プラン

総合診療というのは、患者の経験や家族背景、経済状況など、その人の人生を総合的にみます。その判断の軸となるのは自らの人生経験です。自分たちの生活も重視できる多様な研修プランでワークライフ・インテグレーションを目指します。

4つのフィールド

Four Fileds

外来診療

継続的にフォローすることで、かかりつけ医としての生活習慣病マネジメントや、ヘルスメンテナンスを実践します。ワクチン接種や健診なども経験し、地域医療のニーズを体感できます。指導医や経験のある医師に相談しやすい体制の元で診療ができ、外来終了時にが振り返りを一緒に行います。

病棟診療

コミュニティホスピタルは、ポストアキュート・サブアキュートの両方に対応する地域密着型の病院です。地域医療特有の様々なプロブレムに対して主治医として対応していきます。教育回診や症例カンファレンス、リハビリ専門職との協働などを通じて、患者さんにとっても最良の医療を実践してきます。

在宅診療

小児から高齢者まで医療依存度の高い患者の症例を経験することができます。最初の1ヶ月間は診療同行から始まり、徐々に診療にも加わってもらいます。独り立ちした後も、1日の最後に指導医とディスカッションをして学びを深めていきます。

地域活動

地域ごとで培われてきた地域活動やお祭り、町会などのコミュニティに参加するなど、病院内では見ることができない患者の生活を身近に感じることで「生活を支えるための医療」を実感しながら診療することができます。

レジデイ

Resident Day

レジデイとは、レジデント・デイの通称であり、毎週水　攻医全員が集まり、総合診療を系統立てて学ぶ機会であるコア・レクチャーや豊富なワークショップにより総合診療医にとって必須の知識、スキルを身につけることができます。また、専攻医が実際に遭遇した複雑困難事例の検討会（Family Medicine カンファレンス、通称FMカンファ）も定期的に行われ、経験の共有の場になるとともに、Bio-Psycho-Socialモデルや患者中心の医療の方法といった家庭医療学的なアプローチをいかに実践していくかを集中的に学ぶ貴重な機会になっています。月に1回程度、各分野のエキスパートである外部講師を招いてのレクチャーが開催され、プログラム内に留まらない多くの学びを得ることができます。

レジデイで学ぶ具体的内容

高血圧症、脂質異常症、糖尿病、骨粗鬆症、睡眠障害、認知症、心不全、心房細動、肺結節影、貧血、ピロリ菌感染、関節リウマチ・関節痛、嚥下障害、排尿障害、便秘、気管支喘息・COPD、結核、小児の急性ウイルス性疾患、COVID-19、成人・小児ワクチン、がん検診、ウィメンズヘルス、メンタルヘルス、禁煙外来、皮膚疾患、性感染症、アルコール関連障害、栄養、スポーツ医学、コーチング、在宅診療開業、マルチモビディティ、Point of Care 超音波、キャリア支援など

地域活動への参加

Community

大病院では学ぶことのできない研修の一つです。例えば、東京都の通称「山谷地域」において、生活困窮状態にある方に、無料診療、生活相談・支援、炊き出し・アウトリーチなどの支援活動に参加します。病院の中では見えていなかった、地域が抱える問題を体感することは今後の医師人生の大きな学びになるでしょう。

地域活動の例
- 住民サポートセンターでの医療相談
- 病院主催の地域交流への参加
- 地域の祭事の救護班としての参加

ローテーション例

Rotation

「それぞれの夢の実現のために」

CCH総診の専攻医は、一人ひとりの将来の目標や学びたい内容に応じて、指導医と綿密にディスカッションしながら極めてフレキシブルに3年間のローテーションを組んでいくことができます。

プログラムのPOINT

当プログラムでは研修と並行して、MBAやMPHなどの学位取得のために外部の大学院に通学する専攻医や、海外留学や自分がやりたいことを実現するためにプログラムを中断する期間を設け、1年延長して研修を修了する専攻医もいます。産前産後休業、育児休業取得時にはプログラムとしてバックアップする体制を整えており、医師としてのキャリアとプライベートの両立ができるよう、全力で応援します。

専攻医Aさんのビジョン

“関東圏”でコミュニティホスピタルとファミリークリニックで地域医療を実践し、幅広い知識と経験を得る

■ こだわりたいポイント ■

東京のコミュニティホスピタルや地域のクリニックで、プライマリ・ケアを実践する中で総合診療の幅広い知識と経験を身につけられる。地域医療・多職種連携・マネジメント等の学びも得られる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医 1年目	同善病院※（病棟・在宅・外来）						水海道さくら病院/茨城医療センター（病棟・在宅・外来）					
専攻医 2年目	都立広尾病院 総合診療科						都立広尾病院 ER			都立広尾病院 小児		
専攻医 3年目	同善病院／桜新町アーバンクリニック(希望に応じて期間を選択)※											

専攻医Bさんのビジョン

“東京・愛知”の複数のコミュニティホスピタルで、総合診療医として様々な働き方を経験し、学びを深める

■ こだわりたいポイント ■

地域やタイプの異なる複数のコミュニティホスピタルで総合診療医として必要な外来・病棟・在宅での診療能力を身につけつつ、総合診療医として興味のある分野を深掘りできる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医 1年目	岡崎医療センター ER			岡崎医療センター 総合診療科						豊田地域医療センター 病棟		
専攻医 2年目	岡崎医療センター 小児			豊田地域医療センター 在宅			桜新町アーバンクリニック※（在宅・外来）					
専攻医 3年目	同善病院／桜新町アーバンクリニック（希望に応じて期間を選択）※											

※ 同善病院・桜新町アーバンクリニックでの総診Ⅰ・Ⅱの期間は、麻生飯塚病院 緩和ケア科などの外部研修（6カ月まで）を選択することもできます。

指導医
稲垣 あゆみ

出身大学
徳島大学
卒業年
2019年
初期研修病院
川崎市立多摩病院

私にとってのCCH総診

理想に向かう一歩

どうして総合診療医を選んだのか？

何でも相談してもらえる医師になりたい

学生の頃から気軽に何でも相談してもらえる医師になりたいと、漠然とそれは総合診療が一番近いのかなと思っていました。大学在学中にとある講演会で、大学の先輩にあたる先生が家庭医療について紹介しており、その内容がまさに私の理想の医師像で、総合診療・家庭医療医になろうと思いました。

プログラムを受けて何が良かったか？

病院の外に出る、地域の方と交流する

私はもともと訪問診療や地域活動に興味があったこともあり、病院にばかり引きこもって勉強するのではなく、訪問診療を勉強する期間がしっかり確保されていたり、また地域活動が活発で病院の外に出て地域の方々と交流する機会があったりしたのが良かったです。

これからの目標について

地域の方々にとって身近な医師に

現在地域活動として、当院のスタッフや地域の方の力を借りながら様々なイベントを試行錯誤しながら行っております。地域活動を通してもっと地域の方と仲良くなって、もっと気軽に色んなことを相談してもらえるようになりたいと思っています。

入ってくるみなさんに一言

個性的で素敵な仲間がたくさんいます

総合診療はまだまだマイナーな分野ですが、当プログラムはもちろん、全国各地に素敵な仲間がたくさんいます。どの仲間も個性豊かで、やりたい事・やっている事も様々です。自分の興味を大切にしながら、仲間たちから刺激を受けつつ、一緒に頑張れたらと思います。

指導医
梅沢 義貴

出身大学
順天堂大学
卒業年
2018年
初期研修病院
順天堂大学附属練馬病院

私にとってのCCH総診

人々の『幸せ』を本気で支える集団

どうして総合診療医を選んだのか？

進路に迷った末に出会った総合診療

初期研修時代は膠原病内科や脳神経内科など、特定臓器に囚われない内科に興味がありました。進路に迷っているとき、地域研修で訪れた病院で病棟、外来、在宅を全て診るという経験を経て、様々なセッティングで一人の人と長く関わり続けることができることに憧れを抱いて総合診療専門医を選びました。

プログラムを受けて何が良かったか？

医師として、人として成長できた！

初期研修時代は誰しもその傾向にあると思いますが、どうしても疾患の治療にばかり意識が向いていました。総合診療プログラムに参入してからももちろん疾患の治療については考えますが、それ以上に「どうやったらその人がその人らしく幸せに生きられるだろうか」ということを主眼に置いた治療やケアを学ぶことができました。
自分が知っていたいわゆる“医療”だけでなく、コミュニケーション能力や様々な思考フレームを実践を通して学ぶことができ、医師としてはもちろん人としての成長もできました。

これからの目標について

関わる全ての人をHappyにする

“地域医療”という難しくて敬遠しがちなものをもっと身近に、もっと楽しいものだと感じてもらいたいです。そして、全国津々浦々場所は違えど「住む人から街、地域に至るまでを幸せにする」という同じ想いを持つ仲間を増やしていきたいです。そうすれば日本の未来は間違いなく、明るく楽しいものに変わります。

入ってくるみなさんに一言

これからの日本の一時代を築きましょう

きっとこのパンフレットを手に取ってる皆さんは総合診療マインドに興味があることでしょう。病気を治した後の生活、その先に見える人生とは、幸せとは。CCHはこれからの日本に欠かせない存在となるはずです。ぜひ一緒に追究しましょう!

指導医
小澤 匠平

出身大学
川崎医科大学
卒業年
2015年
初期研修病院
練馬総合病院

私にとってのCCH総診

医師として人間としても成長できる場所

どうして総合診療医を選んだのか？

一人の方を全人的に診られる医師に！

患者さんが抱えている身体的な問題はもちろんですが、それ以外の問題点含めて一人の方を全人的に診られるようになりたいと思い、総合診療科を志しました。

プログラムを受けて何が良かったか？

充実したフィードバックが受けられる

様々なセッティングの場面での診療を行うことができるのでいろいろな角度から考えるスキルが身につきます。患者さんの生活を身近に感じながら診療が行えます。教育の面ではしっかりとフィードバックを受けることができるので安心して診療を行うことができます。

これからの目標について

地域丸ごと幸せにする

ゆくゆくは自分自身が生まれ育った地域で医療に携わろうと考えています。患者さん一人一人を幸せにすることはもちろんですが、その家族さらには地域丸ごと幸せにできるような医療を提供できるように取り組んでいきたいです。

入ってくるみなさんに一言

楽しく学びながら一緒に働きましょう!

病院を飛び出して地域まるごと診ることのできる経験はきっとみなさんのプラスになると思います。患者さんが安心してその地域で過ごすことができる手伝いを一緒にしましょう。
皆さんと楽しく働けることを心待ちにしています。

指導医
小笠原 雅彦

出身大学
名古屋大学
卒業年
2014年
初期研修病院
豊橋市民病院(愛知県)

私にとってのCCH総診

医療の原点を学べるところ!!

どうして総合診療医を選んだのか？

すべての人がその人らしく生きられるように

腰椎分離症で小さい頃から通った整形外科の先生が「子どもの自分の言葉」を聞いて診療をしてくれたというのが原体験。すべての人がその人らしく生きることを支えられる存在になりたいという思いを叶えるために総合診療専門医を志しました。

プログラムを受けて何が良かったか？

患者さんの人生を支えるための診療だと実感できる

BPS(生物-心理-社会)モデルという言葉を知らなかったとしても、患者中心の医療や家族志向型ケアなど急性期病院で初期/内科研修とは違った切り口で体系的に学ぶことができます。
CCH総診はコミュニティ(地域社会)を主体とした診療の場が主で、在宅医療や地域志向型ケアなど病院の外に出て医療を行うことで、より患者さんの生活を身近に感じることができます。だから自分が患者さんの何を支えるために医療者でいるのか、その生活を支えるためなのだということを肌身で感じ続けることができます。学習面のサポートもしっかり受けられるため安心して医療に取り組むことができます。

これからの目標について

コミュニティホスピタルを「かっこいい」働き場に

CCH総診の研修が全国どこでも受けられるように、そしてコミュニティホスピタルで働くことが総合診療医にとって「かっこいい」と思える魅力的な選択肢にしていきたいです。総合診療医として地域に溶け込むような医療が実践できるのは本当に楽しく、この楽しさを一人でも多くの人に伝えていけたらと思います。

入ってくるみなさんに一言

新しく輝かしいキャリアへようこそ!

コミュニティホスピタルは、大病院でもないクリニックでもない、総合診療医の第3のキャリア。この新しいフィールドでは、きっとみなさんの「やりたい!」を叶えることができると信じています。一緒に新しい未来を切り開きましょう!

CCH総診は、
関東で3つのプログラムを展開しています

コミュニティホスピタルである同善病院、水海道さくら病院※、多職種協働拠点である桜新町アーバンクリニック。
都内の3つの研修拠点で、家庭医療や訪問診療を中心とした地域のかかりつけ医として、大病院にはない経験を積むことができます。
熱意あふれる指導医と多職種協働の診療の場で、幅広い総合診療を学ぶことができます。
※ 水海道さくら病院CCH総診プログラムは2025年4月～開始。

同善会CCH総診プログラム

Douzen

同善病院/
同善会クリニック

東京都台東区

東京都台東区にある同善病院(45床)は、回復期リハビリテーション病棟と機能強化型在宅療養支援病院の機能を持ったコミュニティホスピタルです。併設する同善会クリニックはリハビリ機能を持った地域のかかりつけクリニックです。教育的な指導医のバックアップの元、地域に密着した入院・在宅診療・外来をシームレスに見ることで、総合診療全般を学ぶことができます。

桜新町アーバンCCH総診プログラム

Sakurashinmachi

桜新町
アーバンクリニック

在宅医療部 他

東京都世田谷区

東京都世田谷区で地域のかかりつけ医療機関として、総合診療医が中心となって、外来、在宅医療、訪問看護、通所介護、居宅介護支援、看護小規模多機能の医療・介護サービスをワンストップで提供しています。「コミュニティホスピタル」のクリニック版として、多職種と協働しながら、地域に密着した豊富な事例を経験することができます。(在宅患者数450人、看取り160人/年)

大病院にはない、研修の場としてのコミュニティホスピタル

私たちは「総合診療を軸に超急性期以外のすべての医療とケアをワンストップで提供する"コミュニティホスピタル"」を日本中につくることを目指しています。CCH総診ではその中心的な役割を担える総合診療医の教育に力を入れています。高齢化社会、ACP(Advanced Care Planning)、地域包括ケアシステムなど、より大きな枠組みの中で、患者個人にあわせた医療の重要性が高まっています。質の高い病棟・外来診療に加え、医療依存度や複雑性の高い患者さんを多職種でみる在宅診療、病院を飛び出し住民の中に医師ではない"私"として入っていく地域活動を通じて「患者をまるごと診る」ための実践的な研修を行います。地域と一体化した病院で何を学べるのか、みなさんにもぜひ体験していただきたいです。

プログラム統括指導医
桜新町アーバンクリニック
在宅医療部 部長
五味 一英 先生

指導医
同善病院 副院長
小笠原 雅彦 先生

両CCH総診プログラムは、共通の連携　研修施設でプログラムを構成しています

各人の希望をふまえプログラム責任者や指導医と相談の上、1年ごとに決定されます。

【主な研修先】

同善病院	豊田地域医療センター	たちばな台病院
同善会クリニック	藤田医科大学岡崎医療センター	藤田医科大学ばんたね病院
桜新町アーバンクリニック	都立広尾病院	悠翔会ホームクリニック知多武豊
水海道さくら病院	NTT東日本関東病院	半田中央病院
永寿総合病院	東京医科大学茨城医療センター	総合病院南生協病院
聖路加国際病院	飯塚病院	山下病院　など

藤田総診との連携

日本の総合診療プログラムの中で、最も多くの専攻医を集めている藤田医科大学の総合診療プログラムと連携した教育環境を提供します。充実した教育体系のもとで、現場で使える実践的な内容を研修することができます。

藤田総診WEBサイト
https://fujita-soushin.jp/

人生をみる医療
藤田総診
藤田医科大学
総合診療プログラム

▶ 皆様の見学をお待ちしています!

パンフレットをお読みいただき、CCH総診に興味を持ってくださいましたら、是非とも病院見学にお越しください。
(見学は、同善病院、桜新町アーバンクリニックのいずれか、あるいは両方の受け入れが可能です。)

その他、ご不明点やご質問などございましたら、お気軽に下記メールアドレスまでお問い合わせください。

CCH 総合診療プログラム 事務局メールアドレス　info@cch-a.jp
CCH総診 お問い合わせフォーム　https://forms.gle/dSyddxr5Z7Yin7KF7

お問い合わせ
フォームは
こちら